

はじめに

このたび、令和3（2021）年度から令和8（2026）年度までを計画期間とする「第1期 静岡市がん対策推進計画」について、中間評価を行うとともに、計画の進捗状況や本市の課題や社会状況の変化を踏まえた中間見直しを行いました。



がんは、我が国において、昭和56（1981）年から日本人の死因の第1位であり、生涯のうちに2人に1人以上ががんにかかると推計されるなど、市民の生命や健康に対する脅威となっています。

また、近年のがん医療の進歩により、がん患者の生存率は年々向上しており、がんにかかった後の生活の質の維持向上も大きな課題の一つとなっています。

こうした状況の下、本市では、平成31（2019）年4月に、市議会議員の総意により政策提案された「静岡市がん対策推進条例」を施行し、令和3（2021）年には第1期計画を策定し、総合的かつ計画的にがん対策に取り組んできました。

今回の中間見直しでは、第1期計画の基本理念「全ての市民が、がんに対する意識を高め、がんに向き合い、がん患者とその家族の心に寄り添うことができ、たとえがんにかかったとしても生涯を通じて自分らしく生きることができる社会の実現」を踏襲しつつ、新たな取組として、感染症対策の推進や精度管理の充実、市民へのがん教育などを盛り込みました。

本計画で目指す社会の実現に向けては、市民、保健医療関係者、事業者、そして行政が一丸となって、社会全体でがん対策に取り組んでいく必要があります。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本計画の中間評価・中間見直しにあたり、多角的な知見から、貴重なご意見・ご提案をいただきました「静岡市がん対策推進協議会」の委員の皆様、パブリックコメントにご協力いただきました多くの市民の皆様に心から御礼申し上げます。

令和6年3月 静岡市長 難波 喬司